



1. 山代神楽本谷保存会

代表者 山崎郁夫
所在地 岩国市本郷町本谷

■禊払い ~みそぎはらい~

太夫	山根廣師	大太鼓	平岡治寿
	上野和弘	締太鼓	江田和彦
	竹中 剛	手打鉦	波羅三鼓
	石坂広樹	笛	波羅佐喜子

この神楽舞は、奉納神楽において一番最初に舞われる神楽で、神楽殿および神楽人を祓い清める舞である。

また、この舞は本谷神楽における神楽舞の基本動作が織り込まれている。

2. 向峠神楽保存会

代表者 安村勝利
所在地 岩国市錦町宇佐郷向峠

■塵輪 ~じんりん~

仲哀天皇	河村純治	大太鼓	安村 暁
高麻呂	坂本和也	締太鼓	堀内ユキ
大悪鬼	梅川友之	手打鉦	長安敏夫
	榎本耕大	笛	岡本雅弘

塵輪という身に翼があり、神通自在(じんつうじざい)に飛び行く大悪鬼(だいあくき)が、何万という兵を連れて、国の人々を殺しまわるので、時の天皇、14代の帝(みかど)、仲哀(ちゅうあい)天皇が高麻呂(たかまろ)をはじめとする兵を従え、この大悪鬼を退治する物語です。



3. 山代白羽神楽保存会

代表者 宮本正行
所在地 岩国市美和町北中山二ツ野

■芝鬼神 ~しばきじん~

火遠理命	巻郷 満	太 鼓	山田裕隆
火照命	葦本三四郎	手打鉦	山本裕太
		笛	藤中慶昭

邇邇芸命の子どもにあたる、火照命と火遠理命が問答で争う舞である。兄の火照命は、気性も荒く、金銀財宝を持ち、鬼人荒平とも呼ばれる。一方、弟の火遠理命は人情も厚く、人徳高い人柄。

ある時、兄の火照命の財宝(芝と呼ぶ)の一部が盗み取られ、辺りを探すが財宝は見当たらず、荒れくれ果てていた。

この狂態を弟の火遠理命に諭され、争いとなるが、最後は兄が改心し、天下泰平となる。

4. 向峠子ども神楽

代表者 安村勝利
所在地 岩国市錦町宇佐郷向峠

■大蛇 ~だいじゃ~

須佐之男命	岡本陸都	大太鼓	梅川輝藍
足名椎	三好菜香	締太鼓	永島美里
手名椎	梅川瑠奈	手打鉦	岡本新大
櫛稲田姫	梅川柗藍	笛	中川恵理花
大蛇	岡本潤弥、中川凧斗		

向峠子ども神楽は、小学校1年生から中学校3年生の10人が、旧向峠小学校で毎週練習を重ねています。

今年8月には、東京で開催された全国中学校総合文化祭に出演し、大舞台上で貴重な経験をさせてもらいました。

頑張りますので、応援よろしくお願いします。

5. 釜ヶ原神楽団

代表者 山本人志
所在地 岩国市美和町釜ヶ原

■頼政 ~よりまさ~

源頼政	山本昭弘	大太鼓	野坂 寛
猪早太	奥野鞆太	小太鼓	沖 駿介
里人	村上雄一	手打鐘	宇津本晃一
鶴	山本将弘	笛	沖 崇充
大猿	富来弘志		
猿	富来輝志、村上 凜、宇津本彪我、田丸帆華		

平安時代の末、幼くして即位された近衛天皇の時代、天皇は毎夜丑三時になると東三条ヶ森より現れるもののけに悩まされていた。そこで弓の名手である源頼政はもののけ退治の勅命受け、猪早太と共に東三条ヶ森へと向かった。やがて夜がふけ空を怪しい黒雲が覆った時、もののけの気配を感じた頼政は雲を目がけて矢を放った。その矢はもののけに見事命中し、地上に落ちてきたところを猪早太がとどめをさした。

そのもののけの正体は、頭は猿、手足は虎、胴は牛、蛇の様な尾を持った鶴であった。



6. 美川観音太鼓保存会

代表者 河上恭子
所在地 岩国市美川町

■やまびこ、雲揺 ~やまびこ、うんよう~

河上恭子、石井麻紀、石高朱美、佐古幸子、中本滋子、原田真澄、升本佳世子、水野珠江、山根基江

本日お届けする曲は、美川観音太鼓オリジナル曲の中の「やまびこ」と「雲揺」の二曲です。

山代の美しい自然を感じていただけるよう、心をこめて演奏します。お楽しみください。



7. 本郷子ども神楽

代表者 佐古 三代治
所在地 岩国市本郷町

■八岐大蛇 ~やまたのおろち~

須佐之男命	福永 武	大太鼓	栗原璃随
足名椎	阿出川響	締太鼓	福井天常
手名椎	篠原珠莉	手打鉦	林 大樹
櫛稻田姫	庄野朱音	笛	亀弘葉月
姫(姫捕り)	中森茅凜		原田萌加
	松本萌子		
大蛇	亀弘裕宇、小濱 灯、福井月詠		
	山根輝恭、渡辺歩夢、新堀和希		
	田中創琉、峰 千瑛、州之内希海		

本郷子ども神楽は、子供神楽伝承教室を通して、小学校5年生から中学校3年生の20人が、6月からの毎週土曜日、この大会のために練習を重ねてきました。

美しい姫、勇ましい須佐之男命、かわいらしい足名椎・手名椎、迫力ある大蛇、そして各場面を彩る太鼓や笛。どれをとっても大人顔負けの演技です。ぜひ応援をよろしくお願いします！

と思われる)、敷太刀の舞へと続く。この神楽は定かではないが、記紀神話の国譲りの物語を表現したと思われる。

9. 金山神楽保存会

代表者 谷口和正
所在地 岩国市美和町生見

■恵比寿 ~えびす~

恵比寿	藤村 好孝	太 鼓	紅床武美
		手打鉦	政兼孝美
		笛	河谷重幸

七福神の一人恵比須さまは商売繁盛、大魚の神様としてみなさんに親しまれています。

本日。金山神楽によります恵比須舞いは鯛を釣りあげるまでの柔軟な動作、笑顔等、近くからご覧になれば夫婦喧嘩も一度に仲直り出来る事間違いなしと言いたいところです。

恵比須さまが鯛を吊り上げた後は何が出て来るか、みなさまゆっくりご覧ください。



10. 上沼田神楽保存会

代表者 鮎川哲男
所在地 岩国市錦町須川上沼田

■黄泉醜女 ~よもつこめ~

伊耶那岐命	坂本光行	大太鼓	大石圭洋
伊耶那美命	角 康之	締太鼓	鮎川颯太
醜女1	鮎川清樹	手打鉦	堀 崇雄
醜女2	鮎川哲男	笛	鮎川孝裕
醜女3	岡村哲文		
黄泉津大神	鮎川真二		

伊耶那岐命は、死んだ妻に逢いに黄泉の国に向かうが、妻はすでに黄泉の国の住人になっていた。醜い姿を見られた伊耶那美命は怒り、醜女とともに伊耶那岐命を追う。千引きの石を境に、伊耶那美命が「一日に千人を殺してやる」と言うと、伊耶那岐命は「それならば私は一日に千五百人の産屋を建てよう」と言い、夫婦は離別する。

現世に戻った伊耶那岐命が禊をすると、天照大御神、月詠命、須佐之男命の三貴神などがお生まれになった。



11. 山代神楽本谷保存会

代表者 山崎郁夫
所在地 岩国市本郷町本谷

■八岐大蛇 ~やまたのおろち~

須佐之男命	山崎郁夫	大太鼓	平岡治寿
足名椎	田中信吉	手打鉦	江田和彦
手名椎	立山正富	笛	波羅三哉
櫛稻田姫	波羅佐喜子		
姫(姫捕り)	藤本裕子		
大蛇	山根廣師、上野和弘、竹中 剛		
	石坂広樹、山根輝恭		

高天原から追放された須佐之男命は、出雲の国肥川の上流で娘を囲み嘆き悲しむ老夫婦と出会い訳を尋ねると「我々夫婦にはもと八人の娘がいたが、毎年現れる大蛇に一人ずつ吞まれ、この櫛稻田姫一人となったが、その大蛇が現れる時期となり、成す術なく嘆いている」と言う。須佐之男命は、その大蛇を退治することを約束し、早速強い酒を造るように命じた。

やがて大蛇が現れ酒の芳香に惑わされ一気に飲み干し酔いつぶれたところを斬り刻んだ。この時大蛇の尾から一振りの剣が出た。

尊はこの剣を天叢雲剣と名付け天照大神に捧げた。後に草薙剣と呼ばれ三種の神器の一つとされた。

8. 東谷神楽保存会

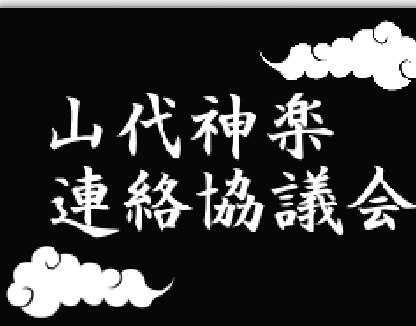
代表者 阿部重夫
所在地 岩国市美和町東谷

■荒神 ~あらがみ~

四神	岡原直樹	大太鼓	西村明広
	藤中 登	手打鉦	渡邊雅宣
	土井一記	笛	村中 孝
	宅野良嘖		

正しくは「荒霊武鎮」というこの舞いは、本来大変長い舞いであり、四人舞、神種(もどき)、霊剣(薙刀の舞)、敷太刀(二刀を持って舞う一人舞)と4種類の舞で構成される。

最初の四人舞は、四つの神を意味し、東が青、南が赤、西が白、北が黒の小旗を背負って舞われ、もどき(大国主命と思われる)が登場し四人の神と問答を行う。もどきが退散し、四神による幣の手、太刀の手と舞われ、薙刀の舞(須佐之命の霊



山代神楽連絡協議会は、構成団体の交流・連携による保存体制の強化や、次世代を担う若手団員の育成、費用に対応した受け皿づくり等を目的として、平成18年7月、岩国市北部の「山代地域」に起源をもつ7神楽団体により結成されました。

毎年秋に開催する「山代神楽共演大会」の企画・運営を初め、神楽を軸にした地域活性化にも取り組んでいます。

検索 [山代神楽](#)